

● 一般演題

房室結節回帰性頻拍との鑑別に難渋し心房周期長 および A-H 間隔の alternans を認めた心房頻拍の 1 例

獨協医科大学越谷病院循環器内科 千田 龍二・岩崎 洋一・高柳 寛
田中 数彦・中田 俊之・溝口 圭一
唐原 悟・長瀬 衣代・加藤 剛
小松 孝昭・清野 正典・虎溪 則孝
黒柳 享義・林 亜紀子・酒井 良彦
井上 晃男・林 輝美・諸岡 成徳
埼玉医科大学循環器内科 松本 万夫

はじめに

心房周期長の交互脈を呈し、二重房室伝導路を有する上室性頻拍で、房室結節回帰性頻拍と心房頻拍の鑑別が困難であったが、右房内を mapping することにより心房頻拍と診断できた症例を経験したので報告する。

1 症 例

患者: 68 歳, 女性。

主 訴: 動悸。

既往歴: 特記すべきことなし。

家族歴: 特記すべきことなし。

現病歴: 1998 年から動悸を自覚していたが、放置していた。2001 年より頻度が増加したため当科を受診した。ホルター心電図で 5 分間持続する心拍数 150/分の narrow QRS tachycardia を認めた。2002 年 8 月 8 日, カテーテルアブレーションを目的に入院となった。

入院時現症: 身長 148cm, 体重 45kg, 血圧 120/80mmHg, 脈拍 65/分, 整。胸部聴診にて心雑音, ラ音を聴取せず。腹部触診にて異常所見はなかった。

入院時検査所見: 血液生化学検査では異常所見を認めなかった。胸部 X 線は, 心胸比 40% で

2002.1.7 PM12:12

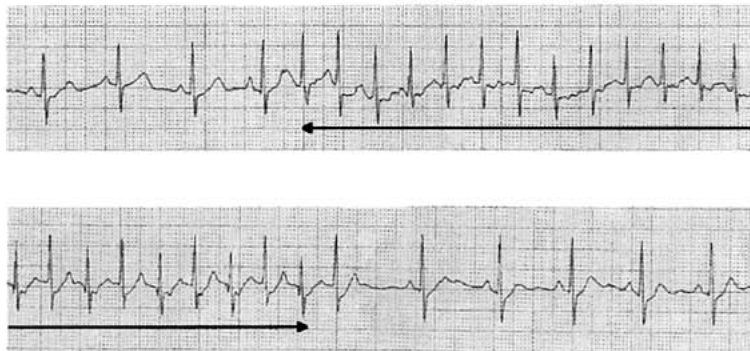


図 1 頻拍時 Holter 心電図

心拍数 150/分, 心房期外収縮で開始し, 5 分間で自然消失した。

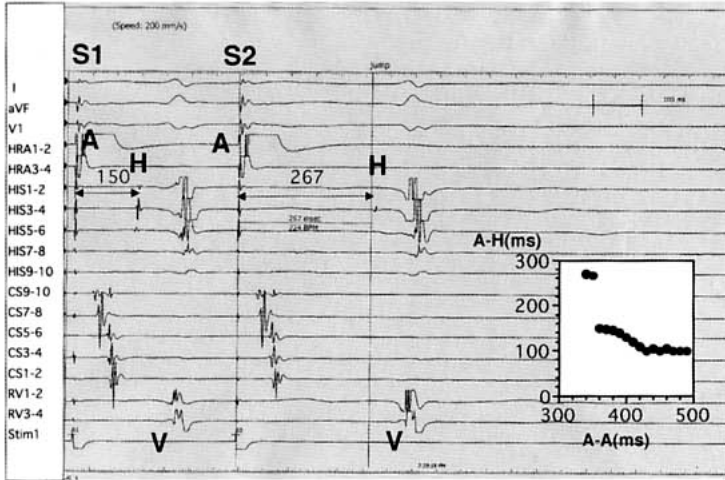


図2 アブレーション前心内心電図
心房早期刺激でjump up(右下)を認め、二重房室伝導路の存在が示唆された。

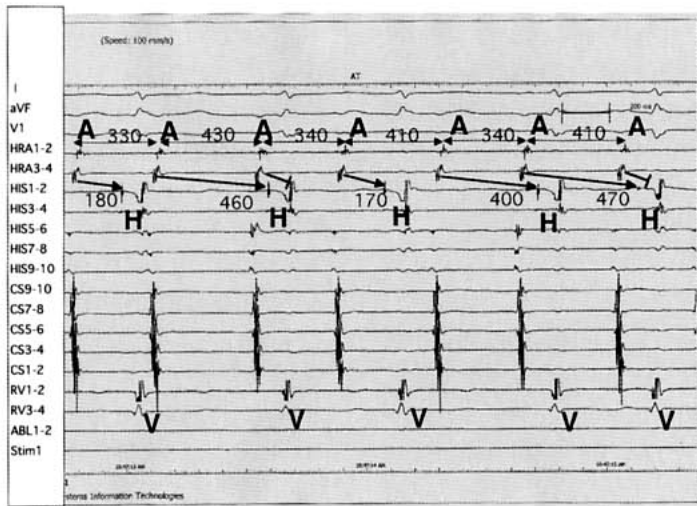


図3 頻拍時心内心電図
心房周期は交互に変動し、A-H間隔の延長、3拍目にA-Hブロックを認めた。

肺うっ血はなく、肺野に異常所見を認めなかった。心電図所見は脈拍75/分、洞調律で軸偏位を認めなかった。また心エコー、心臓カテーテル検査において器質的心疾患を認めなかった。Holter心電図上の頻拍は上室性頻拍で心房期外収縮で始まり、5分後に自然停止していた(図1)。

入院後経過:2002年8月10日、心臓電気生理学的検査を施行した。心房早期刺激でjump upを認め頻拍が開始した(図2)。副伝導路はなく、心室刺激では逆行性心房内興奮順序は一定で頻拍が再現性をもって誘発された。心房刺激にて頻拍の誘発が可能でありA-A間隔390msecでA-H間隔は徐々に延長した。頻拍時の心内心電

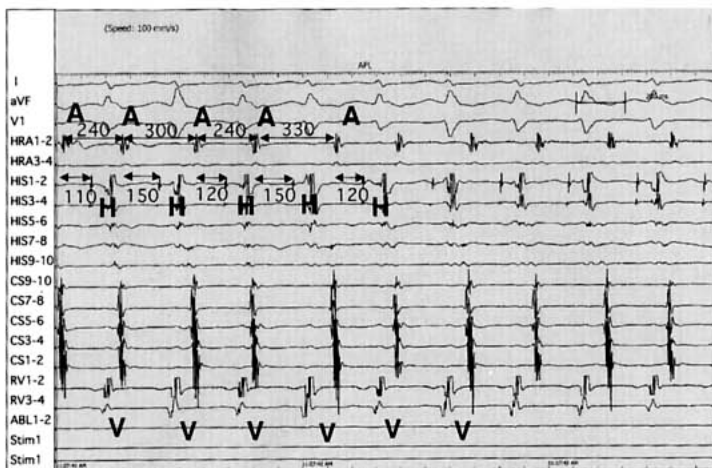


図4 slow pathway アブレーション後心内心電図
A-A 間隔, A-H 間隔はアブレーション前と比べ短縮し 1:1 伝導を示した。

図では、心房周期長は330msecから430msecで交互に繰り返された。A-H間隔は延長し3拍目にA-Hブロックを認めたが、頻拍は持続しておりATを疑った(図3)。頻拍中の心室刺激で頻拍は停止し、またA-V nodeとの関係を疑いAVNRT否定のためATP 5mg静注したところ、房室ブロックを伴わず停止した。

以上よりAVNRTを否定できず、はじめにslow pathway に対するアブレーションを施行した。slow pathway アブレーション後、再び頻拍が誘発された。A-A間隔はslow pathway アブレーション前よりも短縮し、240msecから330msecで、A-H間隔は110msecから150msecで1:1伝導を示しA-Hブロックは認めなかった(図4)。以上のことからATと診断し、右房内をmappingしたところ、三尖弁輪前壁中隔側に最早期A波を認め、同部位を通電した。数秒でATは停止し、1回の通電で頻拍は誘発不可能となった。

2 考 察

本症例のように心房周期長の交互脈を呈する上室性頻拍にはAT, AVNRT, AVRTがある¹⁾。本症例では副伝導路を認めずAVRTは否定的であった。

ATP 5mgにて頻拍が停止し、心室刺激にて誘発と停止が可能でありslow pathwayの焼灼後はAH時間が120msecで変動がなくなったことから本頻拍は二重房室伝導路と関係したATと診断した。最近CARTO systemによる異所性自動能を機序とするATP感受性心房頻拍の報告がある²⁾。本例ではentrainment pacingは施行しえなかったが、1回の通電で速やかに焼灼可能であり異所性自動能の関与が示唆された。

3 結 語

房室結節回帰性頻拍との鑑別に難渋した心房周期長およびAH間隔の変動を認めた心房頻拍を経験した。本例はATP感受性心房頻拍と考えられ、最早期興奮部位は三尖弁輪前壁中隔側であった。

文 献

- 1) 秋山昌洋, 金古善明, 谷口靖広, 中島忠, 間仁田守, 伊藤敏夫ほか. 頻拍周期が変動する房室弁輪近傍起源の心房頻拍の2例. 心臓2001;33 (suppl 5):81-7.
- 2) Iwai S, Markowitz SM, Stein KM, Mittal S, Slotwiner DJ, Das MK, et al. Response to adenosine differentiates focal from macroreentrant atrial tachycardia. Circulation 2002;106:2793-9.